

Guide to climb Mt.Chokai



日本百名山 鳥海山登山ガイド 矢島口 百宅口 猿倉口 国定公園・鳥海山/秋田県由利本荘市



航空		
札幌(新千歳空港)	約1時間	
東京(羽田空港)	約1時間	
名古屋(名古屋空港)	約1時間30分	
大阪(伊丹空港)	約1時間20分	
列車		
東京	約3時間45分	秋田
新幹線	約45分	羽越本線
東京	約2時間	新潟
上越新幹線	約3時間	羽越本線
車		
秋田市	約1時間30分	国道7号から本荘を走り国道108号へ
本荘	約30分	
仙台	約3時間	古川JCTから国道108号へ

交通のお問い合わせは
●矢島駅 ☎.0184-56-2036 ●ハートワンタクシー ☎.0184-55-2246
●羽後本荘駅 ☎.0184-22-0221 ●鳥海観光タクシー ☎.0184-56-2020

登山道標高案内図

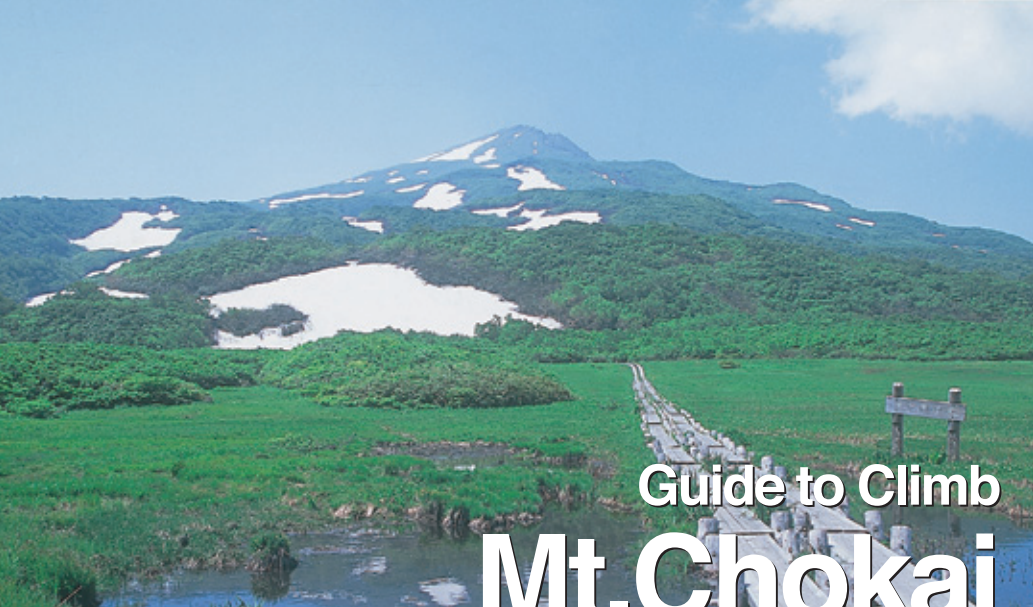
鳥海山東側の登山道「百宅コース」は、キャンプ場として整備されている四合目「大清水」が起点となっています。大清水園地休憩所を出発し、湧き出る大清水を渡り、ブナの原生林の中を1.4km登ると五合目「大倉ノ滝」に出ます。その後、灌木帯にかわった緩斜面がしだいに勾配を増す。六合目「タツチラ坂」につきます。そして更に高度をかき登ると、目の前に覆い被さるような七合目「厚層岩」に着きます。この水底（夏枯れする場合もあります）で喉を潤し、さらに高度をかき登っていく。あたりは次第に高山の様相を示し、やがて溶岩が造ったクマ公が迎える八合目「唐獅子平」へと出ます。避難小屋が建つこの台地からは、出羽丘陵・奥羽山脈の雄大な姿を見渡すことができます。避難小屋を過ぎハイマツの尾根をぬけ、さらに2つの雪渓（霧のとき慎重に）を越え高度をかき登り、ケルンのある九合目「霧ヶ平」に着きます。ここから外輪までの0.7kmは「がれ場」なので、跡み跡を見失わないように慎重に登りましょう。外輪に出たところから2等三角点のある七高山へは、外輪に沿って北へ0.2kmほどです。最高峰（2,236m）の新山山頂へ行くには、外輪の「虫穴岩」の手前から内壁の緩場を慎重に下り、万年雪にとりついて西に向かい、岩に印された矢印を通過して登ると到着します。

このコースでは、九合目から上部の「がれ場」での歩行や落石、霧が発生した場合の下り（特に外輪から八合目・唐獅子平まで）には十分注意が必要です。水場は夏枯れの場合もありますので、大清水で必要量は持っていくきましょう。



神が宿る山として 信仰を集めてきた鳥海山

鳥海山は、標高2,236m、秋田県と山形県にまたがり、福島県と群馬県の県境にある燧ヶ岳に次ぐ、東北で二番目に高い山です。独立峰なので、山頂からの眺めが素晴らしく、岩手山や出羽三山などが望めるほか、朝日が昇ると、日本海上に三角形のシルエットを映す「影鳥海」は、鳥海山ならではのものです。高山植物も多く、チョウカイフスマなど、この山でしか見ることの出来ないものが多く群生しています。また、神が宿る山として、古くから信仰を集め、独特の文化を数多く残しています。

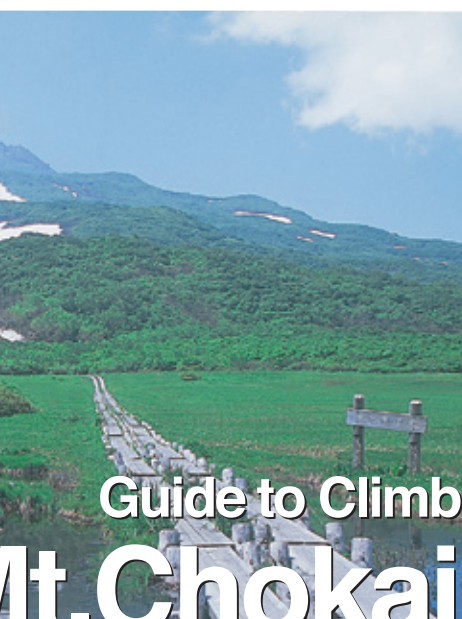


鳥海山の形成

- 直径:東西20~25km、南北151km 高さ:2km 体積:200km³
- コニーテ型複合火山体、三つの火山体で富士山に匹敵する火山エネルギーを持つ第一級の火山体。
- 現在の形は東鳥海火山体で数千年前にできる。
- 海岸から約12kmのところにて2,236mの独立峰。
- ブナ林等学術的標本地域の植生がある。

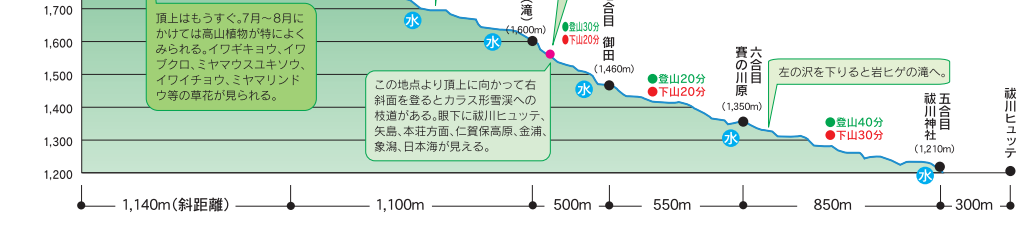
鳥海山の歴史

- 708年(和銅元年) 大噴火
- 804年(延暦23年) 大噴火
- 838年(承和5年) 大噴火、山頂に明和岳
- 850年(嘉承3年) 大噴火、山頂に新山
- 871年(貞観12年) 大噴火
- 884年(元慶8年) 大噴火
- 939年(天慶2年) 正二位
- 1736年(元丈元年) 正一位
- 1764年(明和元年) 大噴火、山頂に明和岳
- 1801年(享和元年) 大噴火、山頂に新山
- 1804年(文化元年) 象瀧大地震、隆起する
- 1821年(文政4年) 小噴火
- 1974年(昭和49年3月1日) 噴煙

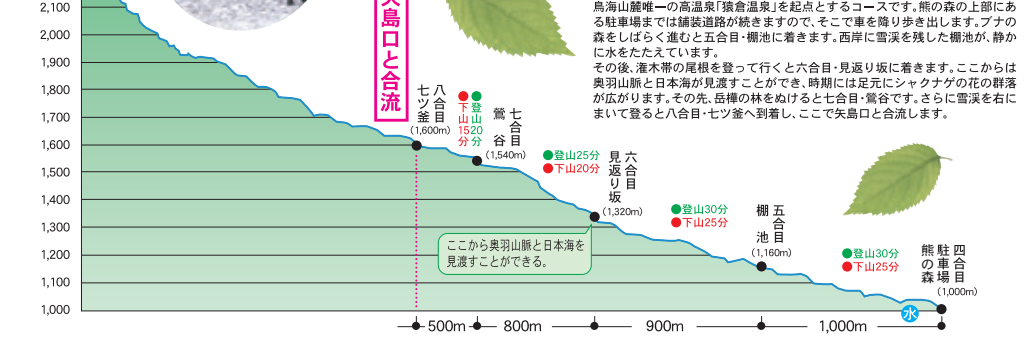


Guide to Climb Mt.Chokai

鳥海山 矢島口コース 登山道標高案内図



鳥海山 猿倉口コース 登山道標高案内図



鳥海山 登山道 矢島口

鳥海修験場として開かれて以来「お山の登山口」として発達してきた矢島からの登山道は魅力に溢れています。昔は、国鉄矢島線の終点、矢島駅で下車したところから登りはじめやがて三合目の「駒の王子」まではバスが行くようになりました。現在では、五合目の「碓川」まで道路が整備されて、自家車で行けるようになり、誰でも鳥海登山を楽しめるようになりました。

登山コース(五合目～頂上)
碓川を過ぎるといよいよ本格的な登山道になります。ダケカンバが生い茂る横板を越え、急な坂道のタツチラ坂を越えると、小さなケルンが多く見られる六合目「賽の河原」に着きます。これより上は随所に雪渓が続きます。登山道は7月中旬までは半分以上が雪渓を歩くので、コースには十分注意する必要があります。七合目・御田には、田形をした水たまりが各所にあり、美しい雪と緑のコントラストが広がります。また、雪渓が大きいことからサマースキーが楽しめます。御田の雪渓上部尾根越しの左下約10mのところ七ツ釜避難小屋(康ケルンが目印)があります。九合目・氷の薬師までは大きな雪渓を登りますが、ガスがあるときはよく気をつけてケルンを目標にして登山しましょう。



鮮やかに咲く高山植物

植物の分布(花期)	
七高山	チョウカイフスマ(7~8月) イワフクロ(6~8月) イワギキョウ(8月) イワウメ(6~7月)
高山帯 1,800m以上	アオノツガザクラ(6~8月) ハクサンチドリ(6~7月) イワカガミ(6~7月)
九合目 氷の薬師	チョウカイアザミ(6~8月) ミヤマキンバイ(7~8月) ハクサンシャクナゲ(6~7月)
亜高山帯 1,100~1,800m	ヒナザクラ(7~8月) ハクサンイチゲ(7~8月) ベニバナイチゴ(6~8月)
八合目 セツ釜	ヒナザクラ(7~8月) ハクサンイチゲ(7~8月) ベニバナイチゴ(6~8月)
七合目 御田	ヒナザクラ(7~8月) ハクサンイチゲ(7~8月) ベニバナイチゴ(6~8月)
六合目 賽の河原	ヒナザクラ(7~8月) シヨウジョウバカマ マイルソウ エンレイソウ
五合目 碓川	ダケカンバ テツカエダ ミツガシワ ミスバショウ スマガヤ ミズナ ミヤマハンノキ

夢ひろがる別天地 鳥海高原 花立牧場公園

鳥海高原花立牧場公園は、ジャージー牛がのんびり牧草をはむ花立牧場のほか、アウトドアを満喫できるコテージや各種スポーツのグラウンド、家族で楽しめる娯楽施設などが整備されており、賑わいをみせています。観光案内所併設で、ジャージー乳を使用したアイスクリーム作り体験などができる花立クリーンハイツもあり、魅力的な高原リゾートとして、また、鳥海山の登山基地として活用されています。



鳥海山 花立牧場公園

